

ブラジル・サンパウロ大学における学術交流記

—若紫巻の「垣間見」——『源氏物語』の絵画を手がかりに—

久富木原 玲

2012年度の本学「魅力あふれる大学づくり事業」の「協定校との学術の推進」に申請して採択され、ブラジルのサンパウロ大学を訪問した。これは同大学哲学・文学・人間科学部における講演2回（2013年3月7日・10日）と文学部、特に日本文化研究所の先生方及び学生たちとの情報交換を含む学術交流を主たる目的とするものであった。

講演のタイトルは、以下の通りである。（図1 講演ポスター）

①「若紫巻の「垣間見」——『源氏物語』の絵画を手がかりに」（3/7）

②「朧月夜の恋——『源氏物語』花の宴巻の艶なる出逢い」（3/10）

これら2回の講演については、同学部日本文化研究所の、ジュンコ・オタ教授、マダレナ・ハシモト・コルダロ教授を初めとして、永江ネイディ久恵教授、ナナ・ヨシダ先生が翻訳・通訳はもとより、さまざまな準備をして下さり、大変お世話になった。この場を借りて、感謝申し上げる。（図2 講演スナップ）

なお、2010年に上川通夫教授と共にサンパウロ大学との協定締結に尽力された川畑博昭准教授（共に本学・日本文化学部・歴史文化学科）には、今回のブラジル渡航及び学術交流全般にわたりサポートをしていただいたが、歴史文化学科に続いて国語国文学科からも参画する機会を得たことは大きな収穫であった。両学科が協力して、学部として海外に発信する第一歩を踏み出したからである。川畑准教授にはその意味でも深く感謝している。

また、図3『源氏物語』翻訳世界地図は名倉ミサ子氏（本学・国際文化研究科・日本文化専攻・博士後期課程大学院学生）の作成になるものである。併せてお礼申し上げる。

講演当日の教室は熱気に溢れ、予定人数を上回る学生が詰めかけ（約100

人)、『源氏物語』に対する関心の高さを目の当たりにする思いであった。教員や学生から幾つもの質問が寄せられたが、ここでは割愛させていただく。ひとりの女子学生が「ぜひ自分が源氏物語をポルトガル語に翻訳したい」と熱心に語ってくれたことだけを記しておきたい。

なお、この学術交流のもうひとつの成果は、上記の教授陣が中心となって、十数年がかりで完成されたポルトガル語訳『枕草子』の上梓に際会し得たことである（図13参照）。この快挙を喜び、早速、ジュンコ・オタ教授とマダレナ・ハシモト教授を招聘して、「愛知県立大学・サンパウロ大学・哲学・文学・人間科学部共同国際シンポジウム」を開催する運びとなったことも併せて報告することとしたい。（このシンポジウムの日時・場所は2013年12月14日10時30分～17時。本学講堂。テーマは「古典文学の多元的地平——翻訳文学と歴史学との結節点をもとめて」。なお本シンポジウムの趣旨等については、本年

図1 ポスター

Ciclo de palestras: Literaturas em Língua Japonesa

Local: Sala Multimídia, 1º. Andar da Casa de Cultura Japonesa

Avenida Lineu Prestes, 159 - Cidade Universitária, São Paulo (próximo ao estôm do Prédio de História e Geografia)

Palestras do Professor Doutor Rei Kufukihara, da Aichi Prefectural University, especialista em Narrativas do Genji, proferidas em japonês (com o resumo traduzido para o português em Power-point).

07 de março - 10:00-11:30

若菜春の「嵯峨見」—『源氏物語』の絵巻を手がかりに Wakamurasakino makino "kaimami" - Genji Monogatari no kisagawo tegakami

O kaimami (espiar pelas frestas) do tomo "Wakamurasaki" - com base nas pinturas das Narrativas de Genji

13 de março - 19:30-21:00

龍月夜忠—『源氏物語』「花の宴」の艶なる道徳 Oborozukiyo no koi - Genji Monogatari "Hanano en" no annuru doai

O amor da dama Oborozukiyo - o encontro sensual no tomo "Festa das cerejeiras" nas Narrativas de Genji

Palestra do pesquisador doutor Shuhei Hosokawa, da International Center for Japanese Studies (Nishibunken, Kyoto), proferida em português.

22 de março - 10:00-11:30 (DATA A CONFIRMAR)

Público-alvo: alunos de graduação e pós-graduação e interessados em geral

Entrada: livre - Inscrição: site da seção da Cultura e Extensão Universitária - FFLCH - tel. 3091-4645

Promoção: Alina de Língua, Literatura Japonesa, Programa em Língua, Literatura e Cultura Japonesa e Centro de Estudos Japoneses/FFLCH. Tel. 3091-2426 (secretaria do Centro de Estudos Japoneses)

図2 講演スナップ

度発行の『文字文化財研究所年報』参照。)

第1回目の講演概要¹⁾

「若紫巻の「垣間見」——『源氏物語』の絵画を手がかりに」

1. はじめに——『源氏物語』の翻訳状況

ボン・ジーア。おはようございます。日本の愛知県立大学の久富木原と申します。きょうは、みなさまにお目にかかれて、とても嬉しく思っています。私は『源氏物語』を専門に研究していますので、これから『源氏物語』『若紫巻』の「垣間見」の場面について、絵画資料を参考にしながらお話したいと思います。

その前に、『源氏物語』がスペイン・ポルトガル語圏で、どれくらい翻訳されているか、また世界各国で『源氏物語』が何ヶ国語に翻訳されているか、簡単にご紹介しておきたいと思います。まず、世界各国では、現在、約30種類の言語に翻訳され、ポルトガル・スペイン語圏では、以下のように、前者が2種類、後者が4種類、確認されています。スペイン語版はいずれも英語訳から重訳され、ポルトガル版も2種類がエドワード・サイデンステッカー及びロイヤル・タイラーの英語訳からの重訳で、もうひとつはスペイン語訳からの重訳です。スペイン語版には、ドナルド・キーンが抜粋した訳からの部分的な翻訳(スペイン語版1)と、ロイヤル・タイラー訳を底本とする(スペイン語版2)などがあります。以下に、その詳細を示します。

(1)・ポルトガル語版1 *O Romance de Genji* Ligia Mailheiro 7 Dias 6 Noites Editores Unipessoal Lda (EXODUS) 2007年初版(図4参照)

・ポルトガル語版2 *O Romance do Genji* Relógio D'Água, 2008

※翻訳の底本

(ア) 英語 Edward G. Seidensticker, *The Tale of Genji*, Alfred A. Knopf, New York, 1976

(イ) 英語 Royall Tyler, *The Tale of Genji*, Viking Press, New York, 2001

(ウ) スペイン語 Xavier Roka Ferrer, *La novela de Genji, Primera época, Esplendor*, Ediciones Desino, S. A, Madrid, 2005

(2)・スペイン語版1 *La Fugitiva de Chujo* (中將の逃亡者)

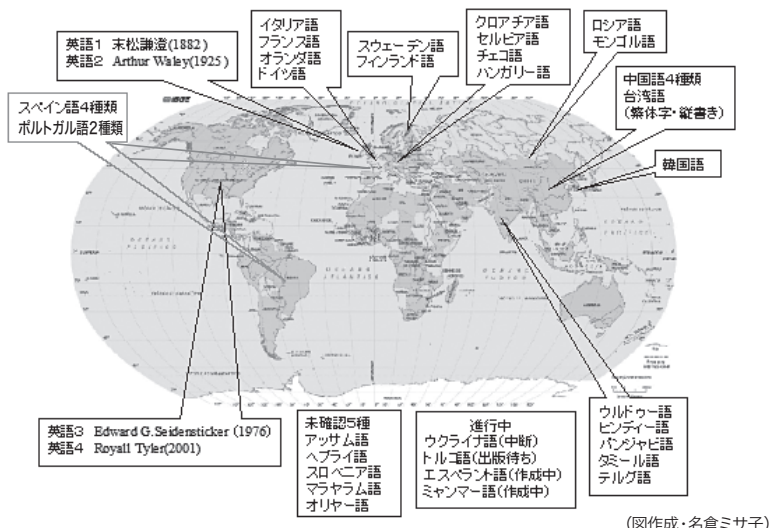
※部分的な翻訳で、D. Keene の著作 *Anthology of Japanese Literature* (London, 1956) に抜き書きされたものを、Arthur Waley の翻訳を基にスペイン語訳したもの。

- ・スペイン語版2 *La Historia de Genji Royall Tyler Traducción Jordi Fibla*, 2006
- ・スペイン語版3 *La novela de Genji II*, Catástrofe, 2006, Madrid
- ・スペイン語版4 *Genji Monogatari* (Romance de Genji) 1941 y 1992, Editorial Juventud (図5参照)

1998, para la presente edición, José J, de Olañeta, Editor Prited in Spain

ここで、4種類の英語の翻訳についても、ご紹介しておきましょう。

- (3)・英語版1 Kencho Suematsu (末松謙澄) 1882年初版
- ・英語版2 Arthur Waley 1925-1928年
 - ・英語版3 Edward G. Seidensticker 1976年初版
 - ・英語版4 Royall Tyler 2001年初版



(図作成・名倉ミサ子)

図3 『源氏物語』翻訳世界地図²⁾

2. ポルトガル語版・スペイン語版の表紙の紹介

- ・ポルトガル語版 1 は2007年版が初版。スペイン語訳は、前述のように確認済みのもので4種類。以下、これらの表紙の写真を紹介する。ポルトガル語版 1 は、現代小説のような表紙絵。（ポルトガル語版 1、図4参照）
- ・スペイン語訳の中には、古い日本の絵画を表紙絵に使ったものがある。これは左右が逆で、実は男性が女性ふたりをこっそり見る様子が描かれているのだが、女性の絵の方が華やかなのでこれを表紙にして、男性の絵を裏表紙にしたようである。（スペイン語版 4、図5参照）
- ・このように、女性の姿をこっそり見ることを「垣間見」と言うが、『源氏物語』においては、男女の出会い、特に男性が女性に恋をし、物語を展開させていく方法として、しばしば描かれる。

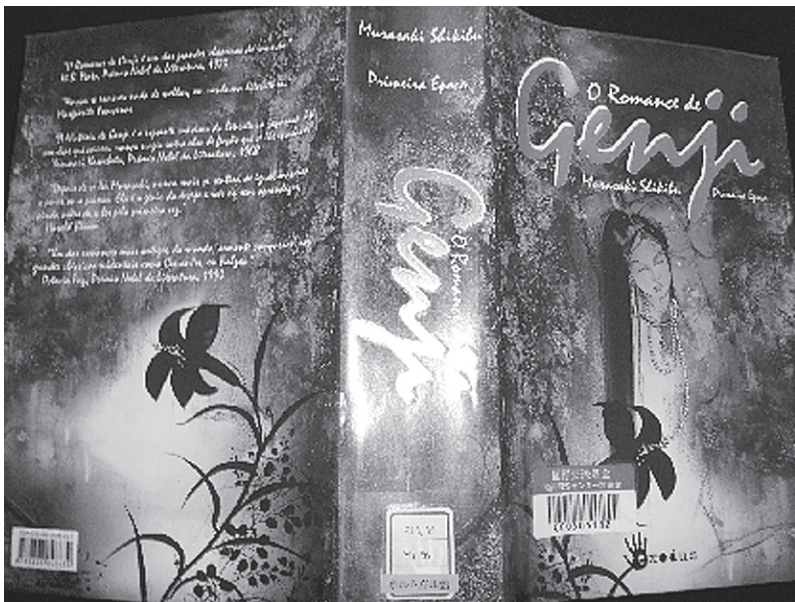


図4 ポルトガル語版 1 の表紙 2007年初版
〈現代的な長い髪の女性と黒百合の組み合わせが印象的〉

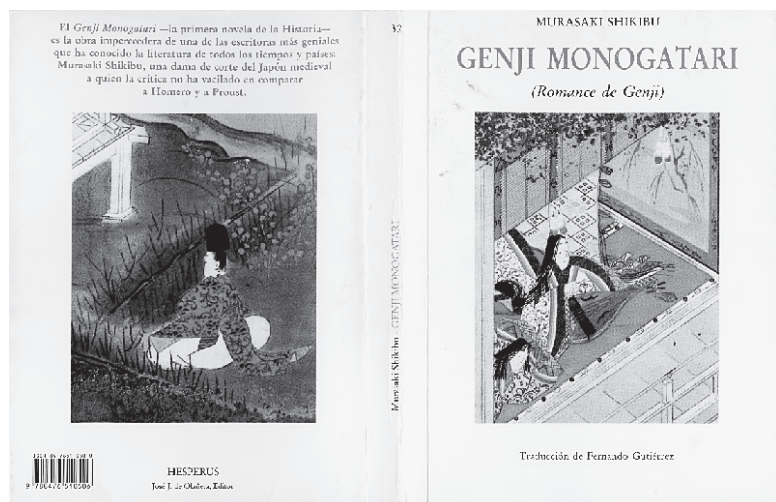


図5 ス페인語版4の表紙 1941年初版
 〈橋姫巻の垣間見の絵だが、左右を逆にして女君を表紙にしている〉

3. 本日の講演の趣旨

若紫巻の「垣間見」の場面は物語の中にどのように位置づけられるのか、他の「垣間見」との違いに着目しながら、その意味を考える。

若紫巻の「垣間見」は、『源氏物語』の中で最もよく知られている場面で、ここには10歳くらいの愛らしい少女が登場する。18歳の若き光源氏は、この少女から目を離せなくなってしまうのだが、それは光源氏が心から慕っている最愛の人、藤壺によく似ていたからであった。

「垣間見」は男主人公に恋心を抱かせ、物語を展開させていく重要な機能を果たしている。しかし、若紫巻の場合は、外の巻々のそれとは全く異なる特徴を持っている。若紫巻がどのように特異なのか、外の巻々の絵画を紹介しつつ、その違いを確認してみよう。（若紫巻の垣間見場面の本文は、10頁参照）

- A 若紫巻 光源氏が若紫とその祖母の尼君を見る（図6）
- B 空蟬巻 光源氏が中流の人妻・空蟬とその継娘を見る（図7）
- C 野分巻 光源氏の息子、夕霧が継母の紫上を見る（図8）
- D 若菜上巻 光源氏の正妻・女三の宮を源氏の甥・柏木が見る（図9）

E 竹河巻 蔵人少将が玉鬘の娘姉妹を見る (図10)

F 橋姫巻 光源氏の息子薫 (実は不義の子) が八の宮の娘姉妹を見る

(図11)

《A 若紫巻》

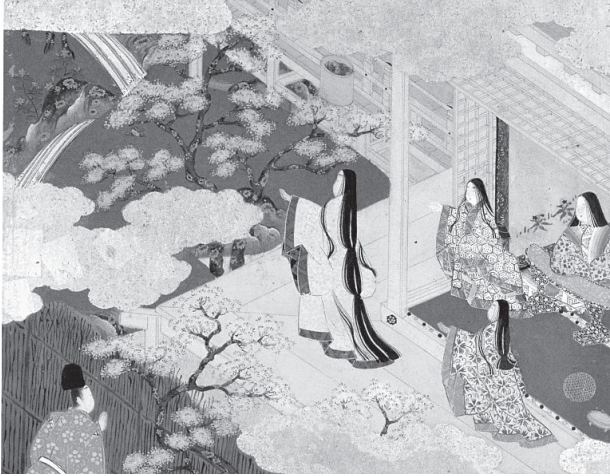


図6 源氏物語画帖 桃山時代 土佐光吉・長次郎 京都国立博物館蔵

《B 空蟬巻》

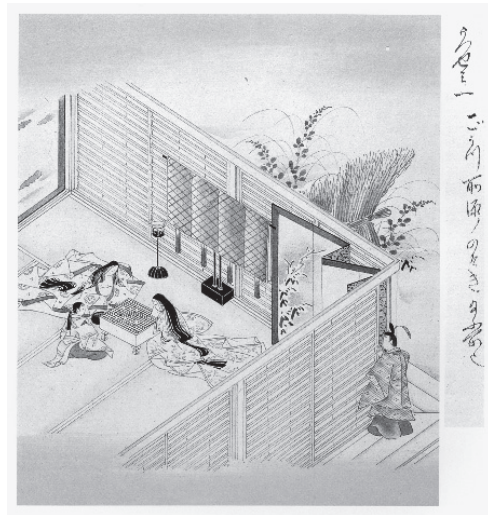


図7 石山寺蔵四百画面 源氏物語画帖 江戸時代中期

《C野分巻》



図8 源氏絵色紙 江戸時代 愛知県立大学図書館蔵

（図8、図9の愛知県立大学蔵 源氏絵色紙については、久富木原玲・高橋亨による「紹介と解題」『武家の文物と源氏物語絵—尾張徳川家伝来品を起点として—』翰林書房、2012をご参照いただければ幸いである。なおこれらの絵色紙は全部で27枚からなる。）

《D 若菜上巻》



図9 源氏絵色紙 江戸時代 愛知県立大学図書館蔵

《E 竹河巻》

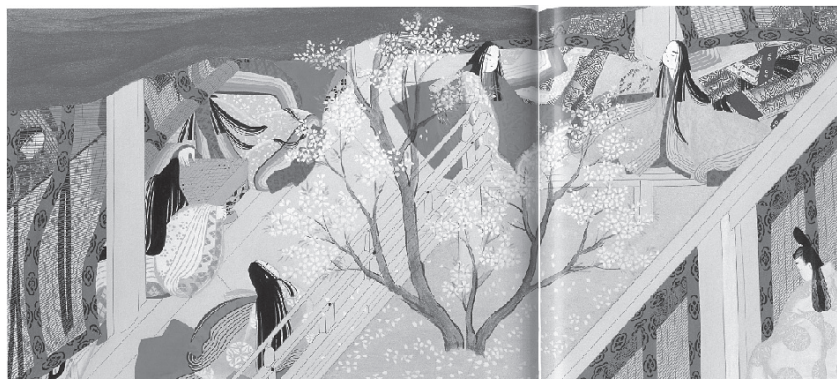


図10 復元模写国宝源氏物語絵巻

《F 橋姫巻》



図11 復元模写国宝源氏物語絵巻

図10、図11共に、『よみがえる源氏物語絵巻』NHK コミュニケーションズ 2005年

これらの垣間見場面を見て気がつくのは、B-F の場合、見られている女性はすべて〇〇〇〇だということ。（〇〇〇〇には漢字四文字で何が入るでしょうか？絵を参考にして考えてみてください。） 次に、若紫巻の本文を挙げてみます。

①日もいと長きにつれづれなれば、夕暮のいたう霞みたるにまぎれて、かの小柴垣のもとに立ち出でたまふ。人々は帰したまひて、惟光朝臣とのぞきたまへば、ただこの西面にしも、持仏すゑたてまつりて行ふ尼なりけり。簾すこし上げて、花奉るめり。中の柱に寄りゐて、脇息の上に経を置きて、いとなやましげに読みゐたる尼君、ただ人と見えぬ。四十余ばかりにて、いと白うあてに痩せたれど、つらつきふくらかに、まみのほど、髪のうちつくしげにそがれたる末も、なかなか長きよりもこよなういまめかしきものかな、とあはれに見たまふ。

②きよげなる大人二人ばかり、さては童べぞ出で入り遊ぶ。中に、十ばかりにやあらむと見えて、白き衣、山吹などの萎えたる着て、走り来たる女子、あまた見えつる子どもに似るべうもあらず、いみじく生ひ先見えてうつくしげなる容貌なり。髪は扇を広げたるやうにゆらゆらとして、顔はいと赤くすりなして立てり。「何ごとぞや。童べと腹立ちたまへるか」とて、尼君の見上げたるに、すこしおぼえたるところあれば、子なめりと見たま

ふ。「雀の子を犬君が逃がしつる、伏籠の中に籠めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。このゐたる大人、「例の、心なしのかかるわざをしてさいなまるるこそいと心づきなけれ。いづ方へかまかりぬる、いとをかしうやうやうなりつるものを。烏などもこそ見つけれ」とて立ちて行く。髪ゆるるかにいと長く、めやすき人なめり。少納言の乳母とぞ人言ふめるは、この子の後見なるべし。—中略—

- ③つらつきいとらうたげにて、眉のわたりうちけぶり、いはけなくかいやりたる額つき、髪ざしいみじうつくし。ねびゆかむさまゆかしき人かな、と目とまりたまふ。さるは、限りなう心を尽くしきこゆる人にいとよう似たてまつれるがまもらるるなりけり、と思ふにも涙ぞ落つる。

本文是新編日本古典文学全集（小学館）

上の本文を確認した上で、若紫巻の特異性について考えてみましょう。

源氏は、まず尼君を見てから (①)、次に少女を見ています (②)。つまり、『源氏物語』における主要な垣間見場面の中では、若紫巻だけが尼と少女なのであり、性愛の対象にはなり得ないという点で特殊なのです。つまり p. 10 の「○○○○」には漢字四文字で「成人女性」が入ることになります。しかしながら垣間見は、うまくいくかどうかはともかくとして、見る人物と見られる人物との恋（それは当然のことながら、性愛を含む）を幻視する物語上の方法ですから、尼や少女を見ることは、ほかの「垣間見」とは全く異なる禁禁性を帯びるのです。もし、尼君や少女を犯したとしたら、単なる密通ではなく人倫にもとる行為、あるいは犯罪的な行為だということになります。しかも、この少女は藤壺にそっくりだということに気づいた源氏は、感動のあまり涙してしまうのです (③) が、これこそが密通の予兆の機能を果たします。

このような点で、若紫巻は外の巻々の垣間見とは、全く異質の要素を持つのです。結果的に、源氏は尼や少女を犯すということはありませんが、しかしながら少女を見た後、同じ若紫巻において藤壺と密通します。藤壺は父帝の後で、継母。しかも後に、藤壺との不義の子を、帝の皇子と偽って皇太子・帝に即位させます。これは天皇の血筋の乱れ、皇統の乱れを招く反社会的反体制的な行為に外なりません。若紫巻は愛らしい少女が登場する場面ですけれども、実

は、藤壺との密通という『源氏物語』を貫く暗い秘密が表裏の関係として描かれているのです。つまり源氏は、尼や少女は犯さなかったけれども、天皇の血筋を侵したわけです。若紫巻の垣間見は藤壺との密通事件の、いわば予告というか、前兆としての機能も果たしているわけですね。そして、この藤壺との密通事件こそが、『源氏物語』の基層を形作っています。即ち、『源氏物語』とは天皇になれなかった天皇の皇子が、密通という手段によって自らの子孫を皇太子や天皇の地位に就けていくという物語なのです。

『源氏物語』は、若紫巻の垣間見場面によって、その表層にある物語と深層を形作る物語を見事に抱き合わせ、愛らしい少女に藤壺の面影を重ねつつ、秘密裏に藤壺との関係を抜き差しならないものにしていくのです。

若紫巻におけるのどかな暮春の夕暮れの風景は、同時に物語の基層を貫く流れとなっていく、密通という陰面に裏打ちされた二重性を帯びているものだったのです。

最後に、この若紫巻の「垣間見」場面が、第二次世界大戦下において、どのように享受されたかという問題についてもふれておきましょう。

図12と図13を御覧下さい。これら2枚の絵を比較した場合、どこが違うで



図12 山本春正絵入り源氏版本



図13 国定教科書 1938(昭和13)年版

しょうか。教科書が図12の絵を使用しているのは明らかですが、教科書では画面の右下にいるふたりの男性、つまり垣間見をする光源氏と惟光の姿が削除されています。この国定教科書は、1938（昭和13）年に、当該箇所が口語訳されて発行され、第二次世界大戦後の墨塗り教科書の時代まで使用されました。

教科書に『源氏物語』の口語訳が掲載された1938（昭和13）年は国家総動員法が公布された年です。ゆえに当時の源氏ブームは、時局に適合した「日本への回帰」としての国粋主義の一部をなすものでした。それは、この物語が「国民精神」を基礎とした世界に誇るべき作品だから小学生も知るべきだとし、一方でこの物語の真の姿は決して知らせるべきではないので「教育的配慮」をしたのです。教材化の意義は、「祖国が所有している高い誇りを日本少国民の胸裏に明確に刻ませ」、女性のあるべき姿や「日本人のアイデンティティ」を学ばせることにありました³⁾。

また、第二次世界大戦下では谷崎潤一郎訳『源氏物語』においては、検閲の関係から、藤壺との密通場面は削除されました。藤壺の密通と表裏の関係にある若紫の垣間見場面を教科書に掲載しながら、藤壺との密通はなかったことにして、その上、垣間見場面からも男性ふたりの姿を消してしまったのです。まことに矛盾したやり方だといえましょう。

『源氏物語』は、戦時下では、検閲による削除と同時に日本民族の国民精神を称揚するものとして利用されたわけです。このように『源氏物語』の享受のありかたは、時代によってその様相が大きく変化しています。このような点も意識しながら読むことが大切だと思われます。

注

- 1) 本稿では、3月7日の講演内容に基づいて、その概要を記すこととした。絵画資料の紹介は25点に及んだが、紙幅の関係上、7点に絞って掲載する。
- 2) 「翻訳世界地図」は伊藤鉄也『『源氏物語』の翻訳状況』（『総研大ジャーナル』No. 15, 2009年）を基に作成した。その時点ではポルトガル語訳は未確認だったが、「翻訳世界地図」にはこれを加えた。またサンパウロ大学の永江・エイデイ・久恵教授からは2013年にペルーでスペイン語版『源氏物語』第一部（“El Relato de Genji”—primera parte”）が、イバン・A・ピント・ロマン（Dr. Iván A. Pinto Román）氏とヒロコ・イズミ・シモノ

(Hiroko Izumi Shimono) 氏によって上梓されたという最新情報をいただいた（出版は日本ペルー協会）。なお、タイラー訳はアメリカで出版されたので、「翻訳世界地図」にはそのように記したが、実際には、オーストラリア国立大学在職中になされた成果である。

3) 有働裕『「源氏物語」と戦争 戦時下の教育と古典文学』インパクト出版会、2002年



図13 2013年3月『枕草子』ポルトガル語翻訳・初版（サンパウロ）

追記

翻訳者のうち、オタ・ジュンコ教授が翻訳にまつわるエッセイを本誌に寄稿して下さいました。併せてご覧いただければ幸いです。